

## 桃山学院大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2021年度>

<改善報告書検討実施年度：2025年度>

桃山学院大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

なお、弾力的措置に係る要件については、大学評価時点で満たしている。2025年度に当該大学に統合した桃山学院教育大学も本年度提出の改善報告書において満たしていることから、総合的に、桃山学院大学は弾力的措置に係る要件ア)～ウ)を充足していると判断する。

### <改善に向けた大学全体の取り組み>

内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織である「全学自己点検・評価会議」において、大学評価結果で提言として指摘されていた事項は研究科に関する内容のみであったが、大学全体の課題として対応するとの方針を2022年3月に確認した。そして、同会議のもとに事務局として置いている「全学自己点検・評価室」が、各研究科と連携・協力しながら、改善課題の改善推進を行った。十分な結果にはつながっていないものの、各研究科において、広報活動の強化やカリキュラム・指導体制・入試要項・試験内容の見直しと適正化などの検討・取り組みを行っている。さらに大学全体の取り組みとして、入学定員を減じた研究科の再編を決定しており、問題点を改善していく姿勢がみとれることから、今後も継続して改善に取り組まれない。

### <是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいがたい。

改善課題については、学生の受け入れにおける定員管理の問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、提言に対する検討所見のとおりである。

#### 1. 是正勧告

なし

#### 2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受け入れ

桃山学院大学

提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、文学研究科修士課程で 0.15、同博士後期課程で 0.00、経営学研究科博士後期課程で 0.22 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。
検討所見	<p>志願者確保のための広報活動の強化等に取り組んでいるものの、文学研究科修士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は 0.15 と低く、また同博士後期課程及び経営学研究科博士後期課程は在籍者がいないため、引き続き改善が求められる。</p> <p>今後の取り組みとして、2026 年度から経済学研究科と経営学研究科を統合して、経済経営学研究科とし、入学定員を減じて募集を行うことを決定している。</p>

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	無	—
イ) 基準 4 「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	無	—
ウ) 基準 4 「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	無	—

※弾力的措置に係る要件の充足については、統合した桃山学院教育大学の状況も踏まえ、冒頭に記した判断とする。

以上